

大人が絵本を 第16回 「絵本の日」



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事フアウンダー

大切な記念日とは

読者のみなさま方が大切になさっている記念日とは、どのような記念日でしょうか。もっとも身近なところでは、誕生日や結婚記念日から、国民の祝日に制定されているものまで、記念日は実にさまざまあります。私たちの生活には、「記念日は何かをする」という祝賀を楽しむ文化が定着しています。

絵本と図鑑の真の良さや楽しみを普及していくことに全力を注いでいる私たち「絵本と図鑑の親子ライブラリー」では、個人の記念日もさることながら、0歳の赤ちゃんから100歳の大人にまで、楽しみや喜び、発見と驚き、そして癒しを与えてくれる「絵本」と「図鑑」を重視して、「絵本の日」「図鑑の日」の両記念日を(一社)日本記念日協会¹⁾に登録しました。

その大切な記念の日とは、10月22日は「図鑑の日」、11月30日は「絵本の日」です。それでは今回は、「絵本の日」の紹介を兼ねて、戦後の絵本の歴史についても触れていきます。

「絵本の日」が生まれた

2012年6月2日、福岡の地に産声をあげた小さな民間図書館「絵本と図鑑の親子ライブラリー」は、民間だからこそ、社会に貢献できる役割があると信じて、小さな力であっても全身全霊で地道な読書推進活動に力を注いでいるところです。その活動のひとつは、絵本の教育的、文化的意義を個人あるいは小さなコミュニティに対して直接伝えていくことです。開館してからの3年半で、1,500組以上のお父様お母様、ご家族様と出会い、絵本を伝搬する役割を日々、果たしていると胸を張れます。また、ときに保育所・幼稚園へ、ときに医療界へ、ニーズに応じ

た絵本の意義・役割を発信させていただいております。もうひとつ大事に考えていることは、それら絵本の教育的、文化的意義を行政・業界などが社会に発信、広める活動を主体的立場で刺激する任務を担っているということです。

私たちは、「絵本の世界」が個と個の関係から、個と文化社会へと広がりを見せることに期待し、「子どもたちと絵本」「大人と絵本」「親子と絵本」、はたまた「コミュニティと絵本」といった個や文化との絆を育む記念日として、11月30日を「絵本の日」に制定させていただきました。絵本と図鑑の親子ライブラリーが開館した同年に、発信を始めた活動です。

なぜ「絵本の日」が11月30日なの？

11月30日は日本で初めて、絵本の全容を論じた絵本評論集となる『絵本論』が出版された日にちです。時代は、昭和も末期の1985年のことです。「日本で現代の『絵本』とよばれている表現形式の多くは、19世紀半ばをすぎて英国に誕生したものの影響を受けて発達したのであり、その歴史の短さは、そのまま絵本研究の遅れの要因²⁾といわれています。わが国では絵本ブームの訪れた1970年代に入ってようやく、絵本評論専門誌が創刊され始め、絵本を特集した雑誌と単行本、絵本関連の出版活動が盛んになり、80年代、90年代の絵本評論、絵本研究の土台が築かれることとなりました。

この国内初の『絵本論』の著者は、日本の絵本研究の基盤を作った、作家でもある瀬田貞二氏です。瀬田氏の作品は、本連載でも幾度か紹介してきましたので、その名前を覚えておられる方もいらっしゃると思います。読書家の方なら、『ナルニア国物語³⁾』や『指輪物語⁴⁾』の翻訳者として紹介するだけで、瀬

手にするときは！

を知っていますか

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

田氏と児童文学が結びつくでしょう。待合室が絵本の宝箱で埋め尽くされている小児歯科医院の歯科医師や、デンタルスタッフの方には、『きょうはなんのひ?』の作者という紹介だけで、親近感が湧くのではないのでしょうか。

🐧 瀬田貞二氏と『絵本論』

子どもたちを静かなところに誘いこんで、ゆっくりと深々と、楽しくおもしろく美しく、いくどでも聞きたくなるようなすばらしい語り手を、私たちは絵本とよびましょう⁵⁾。

『絵本論』の冒頭で、瀬田氏はこのように語りかけています。それはイギリスの昔話『三びきのこぶた』(1904年刊)と日本で再話された同名の赤本を比較し、日本の赤本における「どぎつい色彩と不安定な色感にまぶされた」、「ストーリーの連続性を断ち切ったのんきな子どもだましの笑い話のようなものが乱暴にはなされるのでは、小さな頭でどう理解し、どう感じていけるでしょう」⁵⁾と指摘しているのです。絵本を芸術としてとらえ、また、文体や物語構成の見地から固有の理論があることを説いています。

この『絵本論』が出版されたのは1985年ですが、それから遡ること約20年前の1956年から1975年にかけて、瀬田氏が福音館書店の「こどものとも」月報で絵本の物語やイラストレーションのあり方から、テキスト論、絵本のあるべき姿など多岐にわたって



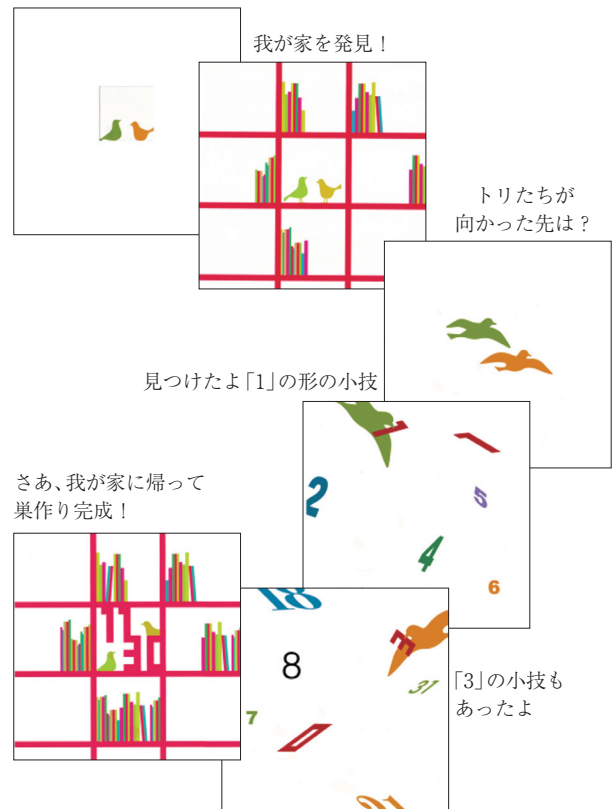
瀬田貞二 著『絵本論
-子どもの本評論集』
(福音館書店)

考察したものが、没後6年に単行本という形で出版され、以後、児童文学界、絵本界の指南書として牽引してくれているというわけです。

🐧 絵本の日シンボルマークに何が見える？

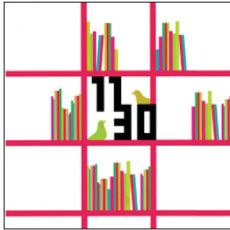
小さなコンソーシアムから生まれた「絵本の日」が、より多くの方たちに広く知られ、永く愛され続けるよう思いを込めたシンボルマークがあります。世界的に活躍されているデザイナーで造本作家の駒形克己氏が、当館のデザイン・総合プロデュースに続いて、この記念日のシンボルマークを手掛けてくださいました。では、「絵本の日誕生物語」へ誘いましょう。

トリのお見合い





集めた小技は
「1」と「3」と「0」



よーく、見ると!!!?



こうして誕生「絵本の日」



11月30日は
「絵本の日」

このようなストーリーを持って「絵本の日」のシンボルマークは生まれました。とっても夢のある物語です。



風は西から。「絵本の日」福岡宣言

私たち、「医療法人元気が湧く」グループは、絵本の持つ“人と人を結び付ける力”を、絵本の日を通して、九州は福岡の地から全国へ広める活動を展開しています。活動に当たり、「絵本の日」を日本記念日協会に登録したと合わせて、決意を新たに行動に移すために、「風は西から『絵本の日』福岡宣言」を宣言しました。

絵本の持つ力には、未知との遭遇があります。

絵本に出会えた子どもたちは、

絵本の世界を自由に駆け巡りながら好奇心が育まれ、

豊かな想像力を発揮していきます。

本当は、私たち大人も持っている能力なのですが、

使わないまま、どこかに仕舞い込んでいるのです。

絵本は子どもだけの物？

そうではありません！

私たち大人が素直な気持ちで、率先して、絵本を見る姿を子どもたちに見てもらいましょう。臆病にならずに、恥ずかしがらずに、勇気を持って未知との遭遇を楽しみましょう。そんな大人の姿を見た子どもたちは、のびのびとした気持ちで絵本と向き合いそして、絵本が好きになり、元気が湧き、生きていくための活力が養われます。

それが、無限の可能性を持つ「絵本力」だと、私たちは考えます。

私たちは宣言します。

子どもの医療に携わる私たちは、「絵本力」を通して、医療の分野に新しい風を吹き込むことを子どもたちのために宣言します。

「絵本の日」には、自分の真心を伝えるために、そして人と人との心を慈しむために、

私から、あなたへ、

「絵本を選んで贈る」活動を

西から風に乗せて

全国に広げることを「絵本の日」の宣言とします。

(Written Y. HMANO with K. KOMAGATA)



絵本の日記念イベント2015

「絵本の日」を制定してから今年で4回目となる記念イベントが、記念日前日の2015年11月29日に福岡市で開催されました。西からの発信です。第1回、第2回のイベントは、子ども向けの企画でしたが、昨年の第3回は視点を一変して、大人向け企画「スーパーシンポジウム“絵本と保育と医療”」を開催、昨年に引き続きスーパーシンポジウム第2弾として、「スマホは危ない」というサブタイトルが付けられました。

パネリストには、小児科クリニックを開業され、『魔法のドロップ』などご自身も絵本を創作されておられる松田幸久先生と、九州医療センターの小児

科医長でNPO子どもとメディア代表理事の佐藤和夫先生、そしてわが絵本と図鑑の親子ライブラリー館長で、福岡学園理事長、元九州大学病院長の小児外科医師・水田祥代先生など、小児科のスペシャリスト御三方を含む6名によるトークライブが行われました。コーディネーターは、共著者の濱野です。

紙媒体の絵本と電子媒体の両者が乳幼児や大人に与えるメリットとデメリットについて、会場からの意見も受けながら討論がなされ、医療従事者の発信力が今、必要であることが再三にわたり確認されました。医学界では、乳幼児の言葉の獲得について脳科学的に研究され、生の言葉の重要性がエビデンスによって明らかにされています。一方で、電子媒体が子どもに及ぼしている運動能力や視力の低下、コミュニケーション能力への影響などさまざまな副作用の問題が指摘されていることにも言及され、そのような科学研究を医療者が重ね、正しい情報を発信することが急務であると提言されました。

シンポジウムの前には、駒形克己氏による親子で楽しむワークショップから始まり、3時間に及ぶとても充実した第4回絵本の日記念イベントとなりました。



絵本の日記念イベント
スーパーシンポジウム
「スマホは危ない！
絵本と保育と医療」



絵本の日記念イベント
駒形克己 presents
絵本のワークショップ
「3つの顔」



小児歯科医療が発信する絵本の意義

このようなイベントを継続的に開催することで、絵本の教育的、文化的意義を個人やコミュニティに対して伝えていくことは、小児歯科医院および民間図書館という小さなコンソーシアムの使命であると、スタッフ一同が共通認識しています。「絵本の日」記念イベントは図書館スタッフだけでなく、歯科医師やデンタルスタッフら法人の全スタッフが参加し発信者となることで、その意義を広く社会に向けて発信し、絵本を通じた育児支援の意義と情熱と自信を熟成させています。それが医療法人元気が湧くの役割なのです。

11月30日は
「絵本の日」



文献

- 1) 一般社団法人日本記念日協会ホームページ <http://www.kinenbi.gr.jp/>
- 2) 鳥越信：はじめて学ぶ日本の絵本史Ⅲ（シリーズ・日本の文学史）、ミネルヴァ書房、2002、pp.353-354
- 3) C. S. ルイス 作、瀬田貞二 訳：ナルニア国物語、岩波書店、2005、全7巻
- 4) J. R. R. トールキン 作、瀬田貞二 訳：指輪物語、評論社*
- 5) 瀬田貞二：絵本論—子どもの本評論集、福音館書店、1985、pp.38-43

絵本

- 1) 瀬田貞二：きょうはなんのひ？、福音館書店、1979
- 2) 松田幸久 文、黒田康子 絵、岩元綾 訳：MAGIC CANDY DROP(魔法のドロップ)、石風社、1999

※日本語翻訳書の初版は1972年から1975年にかけて、瀬田貞二氏訳で全6巻が評論社から出版され、1977年には同社から文庫版全6巻が出版されましたが、現在では絶版となっています。この瀬田氏の訳文を協力していた田中明子氏が、瀬田氏没後に瀬田訳版を全面的に見直し、共訳という名義で1992年に愛蔵版全3巻、A5版全7巻、文庫版全9巻の3種が発行され、現在ではこちらを入手することが可能です。